

大山松江軽石（DMP）

新期大山火山の降下堆積物は、内部に見られる不整合関係から最下部、下部、中部、上部に区分される。米子地域で見られる大山松江軽石は、下部火山灰層に属し、西に分布軸を持ち、大山からほぼ真西の島根県湖陵町まで分布している軽石層である。

松江軽石層は、淡黄色の軽石層で、斑晶鉱物としてカミングトン閃石を含み、斜方輝石を含まない点が大きな特徴である。噴出年代は、約 13 万年前よりやや新しいと考えられている。鳥取県西部地域では、三瓶山起源の木次軽石に覆われる。さらに、北～西麓では名和火砕流に覆われる。弓ヶ浜地区では、更新世に堆積した安来層に対比され、沖積層に覆われるため、ボーリング資料でないと確認できない。松江軽石は、地元では『水まさ』と呼ばれ、植木用の土として重宝されている。

米子市周辺で大山松江軽石の露頭が見られるところ



大山町赤松
⇒上部火山灰層
A T（始良 T n 火山灰）

⇒DMP（1.5m）

⇒淀江軽石

⇒古期大山砂礫層



米子市泉
⇒上部火山灰層

⇒DMP（2m 以上）



米子市レインボービラ大山

⇒DMP（2m以上）



米子市青木団地
⇒上部が DMP (1 m程度)

⇒下部は、大山からの火砕物による堆積物
(火山麓扇状地堆積物)



南部町荻名

⇒DMP (2 m)

⇒スコリア (赤色)



南部町池野
⇒腐食土 (黒色)
⇒

⇒DMP (淡黄色)
3 m以上の厚さがある



南部町鶴田
⇒上部が DMP